

サークル名	不安軽減隊		発表者	熊野
			リーダー	三浦
部署	4階東病棟		サブリーダー	井上 慶子
活動期間	開始:平成26年2月24日 終了:平成27年3月31日		メンバー	4階東;吉村, 迫田, 落合, 熊野 外科外来;出雲
会合状況	会合回数 24回 1回あたりの会合時間 60分			
所属長/推進メンバー	関看護師長	所見欄		
レビュー担当者	野田看護副部長 永澤診療技術部長			

テーマ

入院時手術の必要物品を持参しよう。

テーマ選定理由

手術前日に入院される患者様が多い中,入院後に術前オリエンテーション・処置で患者様も慌ただしく,必要物品の購入は患者様の負担になると考えた。

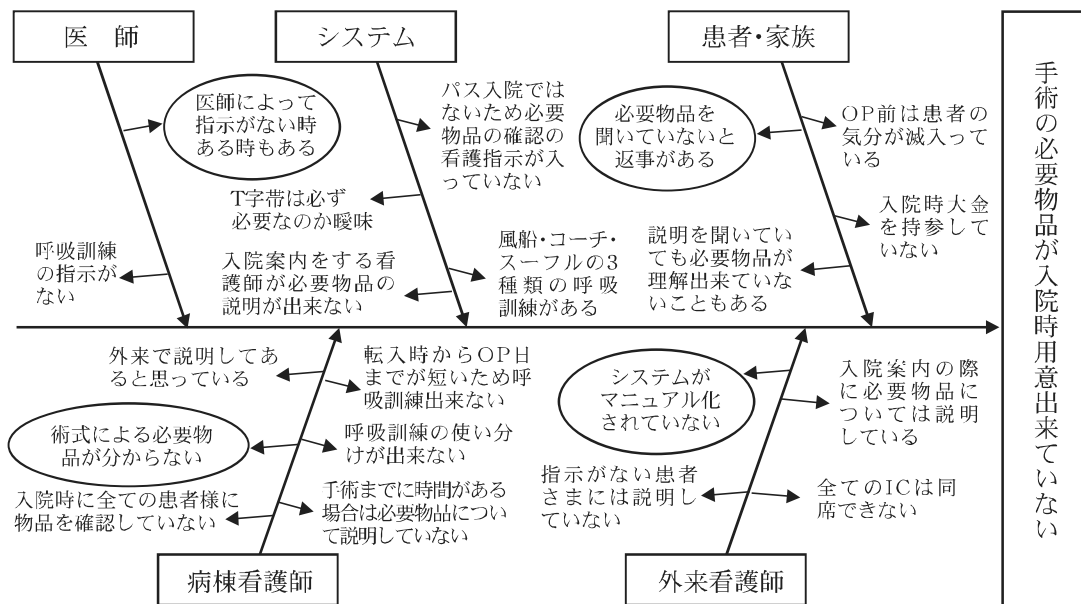
現状把握

病棟看護師が必要物品について理解できておらず,入院時に確認できていない時もあった。外科外来看護師は医師の指示がある場合は患者様に説明をおこなっていたが患者様より「聞いていない」といった声が多数あった。

目標設定

安心して入院し,手術が受けれる様,手術時の必要物品を持参して入院でき,持参率100%を目標とした。

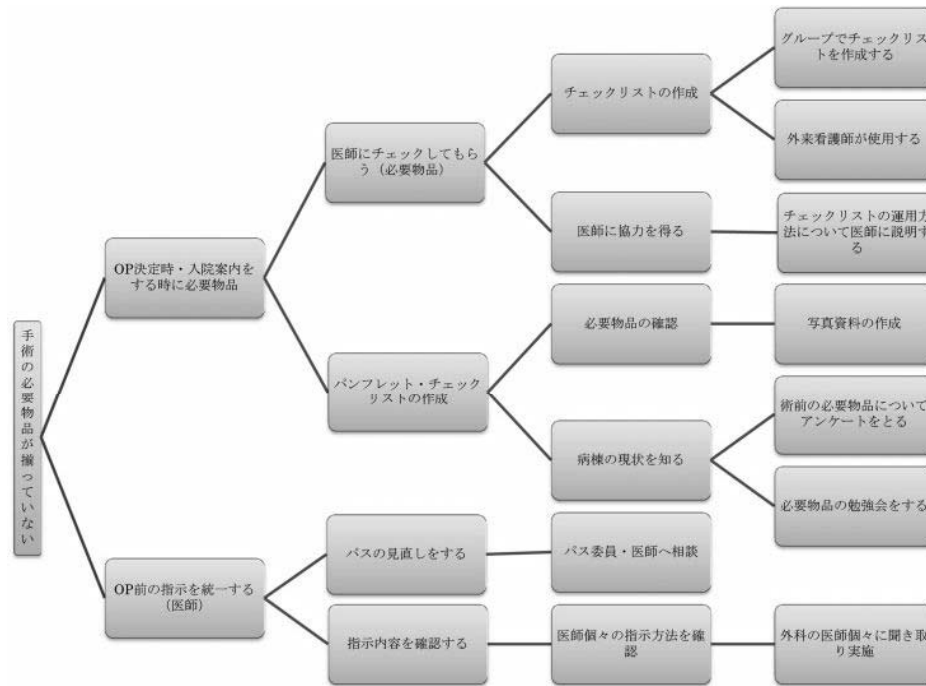
要因の解析



重要要因の検証

1, 医師が看護師に指示を出していない時がある。2, 外来看護師の説明がマニュアル化されていない。3, 患者・家族が必要物品を持ってくることを理解していない。4, 病棟看護師が, 入院時に必要物品の確認をしていない。の4個に分類。

対策立案



対策実施

What	Why	Who	When	Where	How
アンケートを	病棟の現状を知るために	井上、吉村、迫山、三浦	平成26年6月中に	病棟で	実施する
写真資料を	患者・スタッフが見て分かりやすくするために	三浦、熊野	平成26年12月までに	病棟で	作成する
勉強会を	なぜ必要か共通した認識を持ってもらうために	吉村、井上	平成26年9月30日までに	病棟で	実施する
チェックリストで	必要物品を準備するため	出雲・外来看護師	平成26年11月から	外来で	使用する
チェックリストに	必要物品を準備するため	出雲・外来看護師	外来IC時	外来で	主治医の指示のもと外来看護師がチェックリストにチェックする
チェックリストを	主治医に運用方法を理解してもらうために	熊野	平成26年11月までに	病棟で	立本医師の許可をもらいチェックリストを用いて外科医師に運用方法を説明する
必要物品を	患者・家族が理解し準備出来るために	外来看護師	入院案内の時	外来で	医師がチェックしたチェックリストを用いて説明する

効果確認

有形効果は、チェックリスト導入により、入院時の必要物品の持参率は54%増え、持参率84%となった。無形効果は、外科外来と協力し活動を行って行く中で、今まで知らなかったことや業務の流れを理解でき、お互いが考えていることを話し合い、連携・チームワークの向上につながった。

標準化

標準化と管理の定着

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	使用方法の手順を	手術時必要物品が準備できるように	4東病棟・外科 外来看護師	3月	4東	作成した
管理	手術時必要物品のチェックリスト・手順を	いつでも説明できるように	外科外来看護師	用紙がなくなる前に	医事科	コピーし、外来外科のBOXに保管
教育	チェックリストの使用方法を	正しく患者様に説明できるように	外科外来看護師	スタッフ配置換時	外科外来	説明する
	チェックリストの使用方法を	正しく患者様に説明できるように	4東病棟看護師	新人配属・スタッフ配置換時	4東	説明する

まとめと課題

手術時必要物品チェックリストの標準化と管理の定着が不十分なため、病棟での定着の他、内科など他病棟でもチェックリストを活用してもらおうこと、病棟看護師が必要物品について統一した指導・確認が行えるよう定期的な勉強会が必要なことがわかった。今回作成した手術時必要物品のチェックリストは、全てクリニカルパスを使用されている患者様のため、パス委員と連携し、外来指導としてクリニカルパスの見直し・修正に繋がっていくよう、今後も活動を続けていきたい。